

宇都宮市管工事組合に感謝状

高さ20mの国体懸垂幕協賛で

<6/29日経>

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会宇都宮市実行委員会は28日、大会をPRする懸垂幕の設置に協賛した市管工事業協同組合（和田均理事長）に対し、感謝状を贈った。

懸垂幕は中央1丁目の市中央生涯学習センターの壁面に設置。車や人通りが多いシンボルロードに面し、高さ20m、幅0・9mの大きさ。緑などの色を使って

22年10月に大会が開催されることを訴えている。

市役所で行われた感謝状贈呈式には和田理事長、川中子武保専務理事が出席。実行委員会会長の佐藤栄一市長から和田理事長に感謝状が手渡された。

佐藤市長は「人口が多い宇都宮市が国体開催をPRすることが重要」と有意義な組合の協賛に感謝の言葉を送った。

和田理事長は「42年前の栃の葉国体は市民総参加によるまちづくりに大きな成果を上げた。今回も総参加で盛り上げたい。懸垂幕は目立つ場所にあり、国体とともに組合のイメージアップにも貢献している」と協賛への思いを説明。「開催年の来年には来訪者へのおもてなしとしてさらなる協賛を行いたい」と意欲を示した。

国体はカンセキスタジアムで総合開・閉会式が開かれるのをはじめ陸上、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車など県内最多となる14競技18種目が市内で行われる。



感謝状を持つ和田理事長